

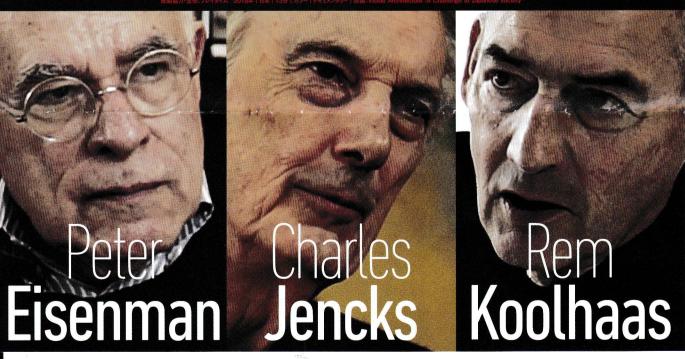
🦹 ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展 正式出品作品 🥻

だれも知らない建築のはなしNSIDE ARCHITECTURE

A Challenge to Japanese Society | Directed by Tomomi Ishiyama

## 建築家に未来はあるか?

監督:石山友美 撮影:像顧広樹 出演:安藤忠昌、環崎新、伊東豊康、レム・コールハース・ビーター・アイセンマン、チャールス・ジェンクス、中村教男、二川由夫 製作:第14回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展日本館製作委員会、P(h)ony Pictures 提供・配給:P(h)ony Picture



世界を作る

## 社会に貢献しながら 同時に野心的な建 作り続けた

今、建築家は何を考えどこに向かっているのだろうか 重要人物たちが本音で語る「建築の未来」とは?







ティストになる

華々しい国際的評価を得ながら、職能としての「建築家」が根付かない日本 国際化を迎えた70年代からの記憶とともに、揺れ動く日本人建築家たち

1982年、アメリカ、シャーロッツビル。当時、世界を代表する超一流建築家が一同に会し、建築の 未来を議論する伝説的な国際会議が開かれた。その名は「P3会議」。日本からは磯崎新が2人の無 名の若手を伴って参加する。後に世界的な建築家へと成長する安藤忠雄と伊東豊雄であった。

そして30年後。建築家たちが初めて当時を振り返る取材に応じる。数々の証言が織りなす日本建 築史の舞台裏。それは高度に資本主義化した社会で、何をどう生み出すのかという彼らの夢と挫折 の歴史。バブル経済がもたらした功罪や、公共建築のあるべき姿も問い直されていく。







まるで群像劇のようなドキュメンタリーを完成させた新鋭・石山友美

監督はドキュメンタリーとしては初の長編となる石山友美。大建築家たちや神話的エピソードを崇 めることは一切せず、今の問題意識から建築家の存在意義を問いかけていく。その切れ味鋭い批評 限は、いまだ体験したことのない高揚感を観る者にもたらすだろう。







Denkikan

15.7.11 公開

TEL096-352-2121

移雨の候費和におかれましてはますすす ご盛栄のこととお慶び申し上げます。 いれ首館をご利用頂きありがとうございます。

さて、当館ではグルへけずでの1週間限定ででにます。「たれれたいらない建築のはなし」を上映いたはす。

石幾崎新、伊東豊雄、安藤忠雄 レム・コールハースというで世界的な建築家たちのかタビューからひも解き、未来の建築のありすを考えるドキュメンタリーです。

高度経済成長期が現在する日本の建築家たかすとのような夢をみてとのように記念と 肉かり合いながら、何を作り出してきたのか。 数多くの現代建築を実際に生がけた建築家たちによって現代建築を対きるられます。

中では熊本はアトポリスのご当地ということで、本編中にえ大きくフォーガスされているす

夫型期間ではずずいますが、この機会に 是非常明易でご覧下さい。

## Denkikan

